

## 平成 29 年度学長戦略経費（重点分野研究プロジェクト）進捗状況報告

（平成 30 年 03 月）

報告者氏名・所属	菊野 雅之・釧路校		
研究プロジェクトの名称	大学生に求められる記述力・自己教育力の伸長を目指した講義形態に関する研究—学生の協働学習形態の構築・学生および大学院生メンターの養成—		
プロジェクト担当者 (氏名・所属・職) ※代表者に●を付すこと	●菊野 雅之 ・ 釧路校・准教授 渥美 伸彦 ・ 旭川校・准教授 幸坂 健太郎・札幌校・講師		
研究プロジェクトの概要等			
<p>学生の記述力および自己教育力の伸長を旨とする講義形態の模索を様々な講義モデルの構築と実践を通じて模索していく。モデル構築の観点は3つである。①「主体的・対話的で深い学び（いわゆるアクティブ・ラーニング）」の講義モデルを「小学校国語科教育法」の中で実践し、その成果を検討する。②同講義の中にメンター（先達者）として同講義既修者である大学院生をグループワークに関わらせることで、学習効率を引き上げ、また、メンター自身の学びを深めることができる講義モデルを模索する。③全国大学生協主催の「読書マラソン・コメント大賞」への投稿を指導機会として捉え、学生間の協働・教師との対話を通じて、学生の記述力及び自己教育力を促す学習モデルのアップデートを行う。</p>			
進捗度	1	←番号を記入 1.順調に進んでいる 2.ほぼ順調に進んでいる 3.やや遅れ気味 4.遅れ気味	
<p>予定していた講義モデルの構築とその実施は、順調に進捗し、大学院生メンターの講義への介入活動も順調に行われている。また計画を変更し実施した「読書マラソン・コメント大賞」への投稿も終了し、全国規模での銀賞受賞者も輩出した。</p>			
研究実績の概要			
<p><b>1. 「小学校国語科教育法」の前期2クラス、後期1クラスを通じた講義の構想と試行</b> 「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の3観点からの講義モデルの構想と試行講義を通じて以下のことが明らかとなった。 「主体的な学び」には、達成すべき課題と課題の有用性への学生の実感が重要。 「対話的な学び」には、学生の課題を教員が事前にチェック・評価することが重要。 「深い学び」には、知識・技能の活用の場と学生相互の交流という両輪が重要。</p>			
<p><b>2. 大学院生メンターの確保とメンターによるグループワークへの介入の実施</b> 大学院生メンターを講義に参加させ、講義効率の向上を図った。また、メンターからグループワークの様子について聞き取りを行い、講義内容の課題を適宜把握することができた。</p>			
<p><b>3. 大学院生メンターからの学生の様子に関する情報収集およびそれに基づいた講義改善</b> 適宜メンターから情報を得ることによって、学生のグループワークの様子をより正確に捉えることができた。講義改善の方策としてもメンターを講義に参加させることで、メンターの観点から講義に有用な情報を得ることが可能である。次年度に向けたメンター用の手引き作成、メンターとの協議を通じて講義内容の改善を行った。</p>			
<p><b>4. 「大学生協主催読書マラソン・コメント大賞」への投稿を通じた論述トレーニング</b> 本学図書館の企画「書評コンテスト」が中止になったことを受け、急遽、「大学生協主催読書マラソン・コメント大賞」への投稿に「国語表現」の講義内容を変更した。コメントの際の留意点を学生相互で評価し合う授業モデルを構想することができた。</p>			

今後の研究プロジェクトの推進計画	
<p>○平成29年度：前年の成果と課題の整理・再試行</p> <p>大学院生メンターの介入のための「手引き」のパイロット版を作成し、メンターの助言等の質的な向上に資するテキスト作成を進めていく。また、本講義は学生と教員への負担は大きく、モデルとしてもさらなるブラッシュアップが求められる。成果については、実践報告として活字化し、成果発信に努めたい。</p> <p>○平成30年度：課題の整理と再試行および講義モデルの発信</p> <p>前年度は試験的運用として大学院生をメンターとして運用していたが、最終年度は講義単位取得済の大学生によるメンターの運用を目指す。</p>	
教育現場や地域で活用可能な成果等	
<p>本プロジェクトは、アクティブ・ラーニング型講義モデルの構築と試行を通じて、新たな学びの方法論へのニーズに対応しようとしている。</p> <p>大学院生メンターの存在は、講義受講の学生にとっては好評で、その助言も役に立ったという声が多かった。大学講義における大学院生・単位取得済の大学生が介入した縦割り指導（メンターシステム＋アクティブ・ラーニング）の可能性とその方法論を示すことができた。</p> <p>「読書マラソン・コメント大賞」への投稿の際の重要な点として「選書」が挙げられる。こういった講義で「読書」を取り上げる際には、学生な自由な読書というよりも学生の選書対象を押し広げるという視点も重要である。なお、本講義詳細についてはシラバスを通じて公表している。また、いかに良質な問題を作成するかということのノウハウやプロセスについても整理がされつつある。この知見は小中高のどの校種においても活用可能である。成果の発信を急ぎたい。</p>	
研究成果の公表実績	
<p>【著書】</p>	
<p>【学術論文】（投稿中も含む）</p> <p>菊野雅之「B問題を作成することを通じて学習指導要領を読み解く力を身に付ける ―「小学校国語科教育法」実践報告（その1）―」『北海道教育大学紀要．教育科学編』68巻1号、2017.8、pp.109-118</p> <p>幸坂健太郎「論理的な文章を書くことと「わたしレポート」―〈自分ごと〉として書く学習者を育てるために―」『田中宏幸先生御退官記念論文集』田中宏幸先生御退官記念論文集編集委員会、2017.8、pp.20-25</p>	
<p>【学会発表、シンポジウム、セミナー、演奏会、展覧会、競技会、普及啓発イベント等】</p> <p>「指導事項を観点とした教材研究の方法論」、2017.10、国語を学ぶ会（北海道教育大学釧路校）</p> <p>「学習指導要領を読むことを改めて考える一次期学習指導要領を見据えつつ―」、2017.5、平成29年度釧路国語教育研究会学習会</p>	
<p>【テキスト、報告書、研修資料等】</p>	
添付資料	
ダウンロード可能なドキュメント	
関連URL	
問い合わせ先	<p>氏 名：菊野雅之</p> <p>電 話：(0154)44-3306</p> <p>E-mail：kikuno.masayuki@k.hokkyodai.ac.jp</p>